

険路、奥穂・西穂間を一泊二日で行く ―新穂高・白出沢ルートを使ったジャンダルム越え―

あの大キレットをも凌ぐと言われる北アルプス―奥穂・西穂縦走。険路「馬の背」に、穂高連峰の番兵「ジャンダルム」。昨年、二泊三日で大キレットを制覇した私は、再び、新穂高温泉をベースに、白出沢ルートを使って、この難路を一泊二日で制覇した。

竹下義朗〓文・写真

Text and Photograph by Takeshita Yoshio



ジャンダルムより望む西穂高岳・焼岳・乗鞍岳・御岳山

ジャンダルム―言わずと知れた北アルプス・奥穂高岳に寄り添う穂高連峰の番兵である。紅葉で名高い涸沢銀座からザイテングラートを登り、奥穂高岳の頂上を極める登山者は数多いが、その先に聳えるジャンダルム、更に彼方の西穂高岳を目指す登山者となると、その数はめっきり減る。

昨年、新穂高温泉・西俣谷ルートを使って槍穂縦走―大キレット越えを果たした私は、今回、大キレットをも凌ぐと言われるこの天下の険を、前回下山に利用した白出沢を使って一泊二日で制覇した。

2008年9月8日午前6時30分。前日深夜、新穂高入りしていた私は、雲厚く多少霧さぶる中、独り出発した。

出発から1時間半。白出沢出合へと着く。昨年は下りに使った白出沢を今回は登りに使う。

沢を跨ぐ重太郎橋までは樹林帯の中を進むのだが、霧雨で足下が濡れ滑り易い。それにも増して気になるのは沢の水量である。「重太郎橋」とは言うものの、立派な橋が架かっている訳では無い。手摺りは無く、単なる角材が渡されているだけで、増水時には水没してしまう事

も稀では無い。幸い水没は免れていたが、昨冬の降雪量が思った以上に多かったのか雪渓が残っている。

取り敢えず、重太郎橋を渡った私だが、ゆっくり休んでもいられない。沢の右岸は岸壁に寄り添う狭い廊下が暫く続くのだが、この辺りは落石危険箇所で、実際、比較的新しい崩落痕がある。休みたいのは山々だが、ここは先を急ぐ。

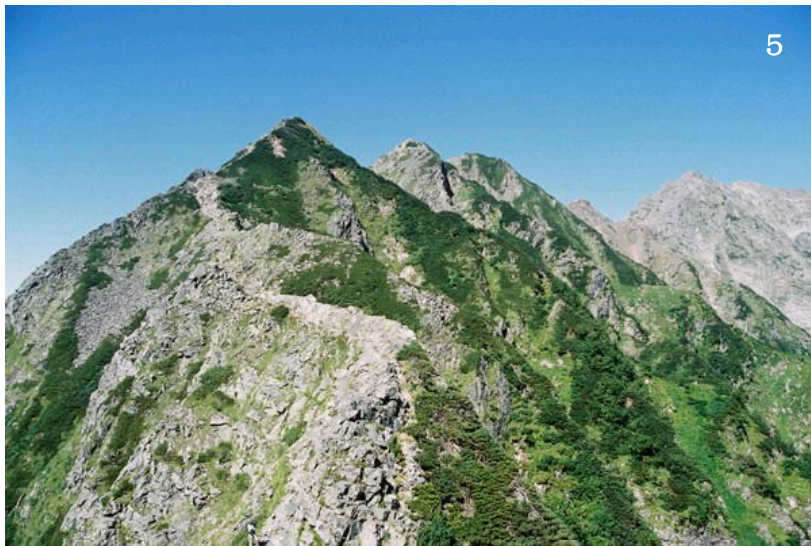
午前10時半。樹林帯を抜け荷継小屋跡に着く。ここから今回の宿、穂高岳山荘の建つ白出の科尔まではガレ場の急登が続く。一見手前のガレ場を登りたくなるが、これは荷継沢。白出の科尔へは奥の白出沢を登る。今回、この辺りでガスに巻かれる事しばしばだったが、くれぐれもルートを誤らないよう注意したい。視界不良時には足を止め、不必要に動かないのも、安全な登山には必要な事である。

ガスの為に余計な時間を消費したものの、午後2時半、無事に穂高岳山荘に到着。稜線には最早ガスは無く、小さく見える涸沢カールと屏風の様な前穂高岳が迎えてくれた。そして日没。飛驒の名峰、笠ヶ岳に夕陽が沈み、3千メートルの稜線が夜の静寂に包まれる中、私は薪ストーブを囲む岳人の輪の中で、明日目指すジャンダルムに思いを馳せたのだった。

明朝午前5時20分。雲一つ無い晴天の中、東の彼方、安曇野を覆う雲海の中から朝日が昇る。予報では天気の崩れる心配は無く一日快晴だそう。これは幸先が良い。何と言っても北アルプス屈指の険路をこれから行くのだ。好天は何にも増して有り難い。



4



5



1

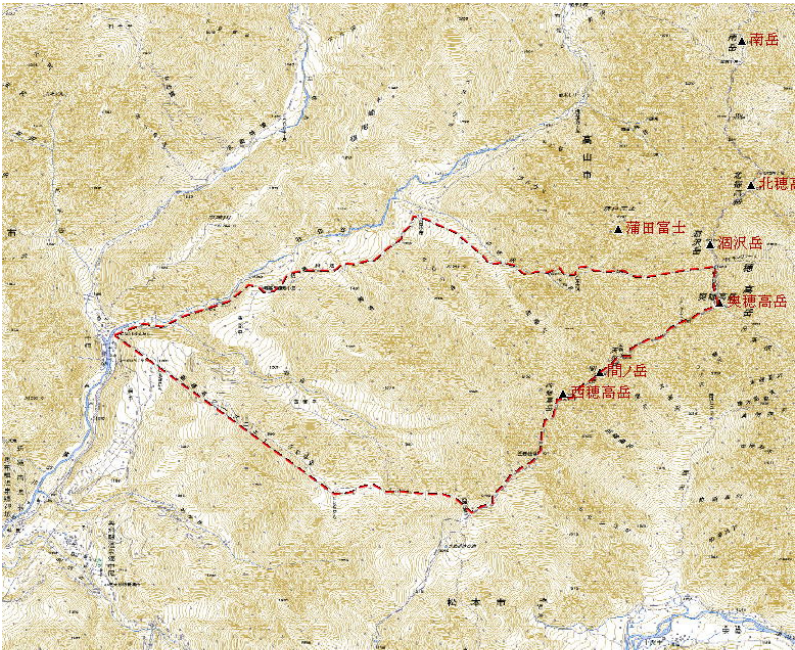


2



3

1 穂高岳山荘より望む涸沢カールと前穂高岳 2 モルゲンロートに染まる涸沢岳と北穂高岳 3 ジャンダルムより仰ぐ涸沢岳・北穂高岳・槍ヶ岳 4 穂高岳山荘より拝す御来光 5 西穂独標より仰ぐピラミッドピーク・西穂高岳・赤石岳・天狗の頭



山行アドバイス

新穂高温泉から奥穂高岳への最短路である白出沢ルートは登山者が少ないマイナーなルート。増水期や大雨の後などには、白出沢にかかる重太郎橋が水没し予期せぬ徒渉を強いられる。又、荷継小屋跡からのガレ場は手前の荷継沢を登りたくなるが、穂高岳山荘へ至る白出沢は奥側なので要注意。一方、奥穂高岳から西穂高岳への縦走路は、馬の背等の痩せた岩稜帯や幾つものピークが連なる北アルプスでも屈指の難ルート。初心者のみでの入山を控える事は言うに及ばず、気象状況や体調によってはセルフレスキューの観点から、経験者や熟達者であっても縦走を見送る勇気を持って欲しい。

宿泊・休憩

穂高岳山荘 ☎0578-82-2150 西穂山荘 ☎0263-95-2506

ロープウェイ

新穂高ロープウェイ ☎0578-89-2252

立ち寄り温泉

ひがくの湯 ☎0578-9-2855



ジャンダルム頂上にて槍ヶ岳をバックに

コースタイム

第一日目 新穂高温泉（50分）穂高平（45分）白出沢出合（1時間15分）重太郎橋（1時間10分）荷継小屋跡（4時間）穂高岳山荘（泊）……………計8時間

第二日目 穂高岳山荘（1時間）奥穂高岳（30分）ロバの耳（30分）ジャンダルム（45分）岩畳尾根の頭（55分）天狗のコル（20分）天狗の頭（55分）間ノ岳（1時間5分）赤石岳（15分）西穂高岳（1時間）ピラミッドピーク（15分）西穂独標（30分）丸山（20分）西穂山荘（1時間10分）新穂高ロープウェイ西穂高口駅……………計9時間30分

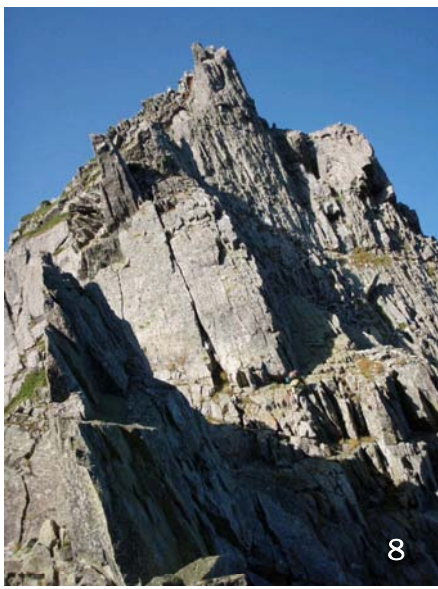
*コースタイムは天候の状況やパーティの力量、休憩時間により大きく変わるので注意。又、西穂高口駅から新穂高温泉へは新穂高ロープウェイを利用する事になるので、下り最終便の発車時刻は必ず事前に確認しておく事。



6



6 穂高岳山荘より沈む夕陽を拝す 飛驒の名峰・笠ヶ岳とのコントラストが美しい 白出沢のガレ場



8

7 新穂高より奥穂高岳に至る最短路・西穂高口駅から新穂高温泉へは新穂高ロープウェイを利用する事になるので、下り最終便の発車時刻は必ず事前に確認しておく事。

レット越えと合わせ、二年越しで槍ヶ岳から西穂高岳まで縦走した事になる。感慨も一入だ。

ここから西穂山荘までは、ピラミッドピーク、西穂独標、丸山とまだまだ続くのだが、私にとっては奥穂・西穂間に比べればものの数では無い。

午後2時20分、槍穂連峰で唯一通年営業している西穂山荘に着く。新穂高ロープウェイの山頂駅、標高2156メートルの西穂高口駅から1時間と言う立地も手伝ってか、登山者に混じって、ごく普通の観光客も寛いでいる。ここの名物は何と言っても西穂ラーメン。涸沢小屋のソフクリームに北穂と西穂のラーメン等と言うと「うっかり八兵衛」かと笑われてしまいそうだが、山では雄大な景色を堪能するのも当然だが、そこでしか食べる事の出来ない名物を口にするのも楽しみの一つなのである。

さて、今回の山行もクライマックス。西穂山荘を後にした私は、西穂高口駅へと歩を進める。ロープウェイと並行する旧ボッカ道の下山路は現在通行が禁止されている。必然的に新穂高温泉への下りはロープウェイのお世話になるのだが、下り最終便の発車は午後4時45分。これに乗り遅れないようにしなくてはならない。

午後3時45分。西穂高口駅の展望台で槍穂連峰の雄姿を目に焼き付けた私は、東洋一の規模を誇る新穂高ロープウェイに滑り込み、新穂高温泉へと下山。

今回も昨年と同様、帰り道にある露天風呂のみの日帰り温泉「ひがくの湯」で二日間の汗を流し、奥飛驒に別れを告げたのだった。

午前7時。宿を発って最初のピーク、穂高の盟主にして日本第三位の高峰、奥穂高岳の頂上を踏む。ほとんどの登山者はここから元来た道を帰るか、吊尾根を経て前穂高岳へ向かうのだが、私の目的はあくまでも奥穂・西穂縦走である。ここから穂高の番兵、標高3163メートルのジャンダルムへと進む。

奥穂を発って、いきなり現れるのがナイフリッジの「馬の背」である。大キレットの「飛驒泣き」を遙かに凌ぐ険路を通過しない事には、ジャンダルムへ辿り着く事は出来ない。細心の注意を払って馬の背とロバの耳をクリア。ジャンダルムは私を暖かく迎えてくれた。

それにしても、ジャンダルムの頂上は予想以上に広い。滅多に巡り会えない日本晴れの中、私は360度広がる大パノラマに夢中でカメラのシャッターを切り続けた。とは言え、いつまでも休んでいる訳にもいかない。今日は長丁場なのだ。私は名残を惜しみつ、ジャンダルムを後に、先を急いだ。

ここから先、西穂高岳までは、岩畳尾根の頭、天狗の頭、間ノ岳、赤石岳と幾つものピークを越えて行かねばならない。その間、鎖場にハシゴ、垂直な岸壁に不安定な浮き石と危険な箇所連続である。進めば進む程、スタミナを消耗していくが、それにも増して神経もすり減る。一瞬の気の緩みが単独山行では命取りになるので、気が抜けない。それでも、西穂高岳の頂上が眼前に現れた時には、今までの疲れも一気に吹き飛んだ。

午後0時15分。西穂高岳の頂上に立つ。今回の目的である奥穂・西穂縦走の達成である。これで昨年の大キ